

自然環境に配慮した造成についての提案と要望 3

大柏川第二調節池連絡会

2025年 3月7日

大柏川河道を「多自然川づくり」で行うとのことですが、生物多様性に配慮した改修をお願いします。

①「現河道を尊重し河道の蛇行は難しい」とのことですが、平常時に低水敷の中で流路が蛇行することは出来るのではないのでしょうか。

- ・住民説明会で示された構造（横断面）を見ると河道の幅（左右両岸の法肩間の幅）も低水敷の幅も相当広い様ですが、それぞれ何mでしょうか。
- ・平常時に低水敷の中で流路が蛇行するように木工や粗朶などを工夫してください。直線的・画一的な景観を改善し、瀬や淵を作ることで魚類や水生植物が生育できる環境を作ってください。

②根郷川合流点、ハンノキ林及び大池沿部分、二和川中沢川合流部分（2023年5月24日提出「要望と提案」に添付の図面の紫部分）について

- ・河川どうしの合流点は水の勢いが強く淵が形成される傾向があり、魚類にも優しい木工護岸や蛇籠等の石積（蛇籠）護岸を使用した「多自然川づくり」が求められます。また、ハンノキ林の河川沿いや対岸の暫定掘削池の護岸も、増水時にも耐え生物に優しい「多自然川づくり」を採用してください。

③住民説明会で示された整備イメージを見ると河道の両岸に沿って管理用通路があります。幅や高さ、材質など構造を教えてください。

備考：「中小河川の技術基準 解題 島谷幸宏著」の抜粋を添付します。多自然川づくりを検討する資料にご覧ください。

以上。